

英語科学習指導案

Date : Friday, May 21, 2010 (2nd Period)

Class : 3-5 (20 boys, 20 girls) 40students

Instructor : Kana Shibata

1 Text: New Horizon English Course 3, Unit 2 The Shamisen Concert

2 Lesson Survey

本課は、ジュディと慎がテレビの英語番組の「日本文化紹介コーナー」を見ながら話をしているという内容で、レポーターによるコンサート会場からの実況中継とジュディと慎の対話、来場者がインタビューを受けて話した内容から構成されている。言語材料としては、継続を表す現在完了形やコンサート会場などの状況を説明するための表現が扱われている。このような言語材料を活用し、生徒は、身近な暮らしにかかわる出来事について紹介したり、紹介された内容を元に対話を楽しんだりすることが可能である。したがって、本課は、自分の暮らしにかかわる出来事についてALTや身近にいる外国人に紹介してみたいというコミュニケーションへの意欲をかき立てる題材であると考えられる。

このような題材の特性を生かし、生徒がALT等、身近にいる外国の人たちに、自分の暮らしにかかわる出来事について紹介できるような授業を展開したい。まず、教科書の内容を中心に、自分の身近な暮らしにかかわる出来事について外国の人たちに紹介する際の言語材料等を理解させ、それらをパンプラクティスや言語活動を通して定着させる。また、生徒の表現の工夫を促すための middle task に取り組ませ、言語材料等を、自分なりに工夫して活用できるようにさせる。その上で、実際に自分の身近な暮らしにかかわる出来事について紹介したり、その内容について対話したりする場面を設定した。

具体的には、本課においては「書くこと」から「話すこと」に重点をおき、「ALTに地域のニュースを伝えよう」というタスクを設定した。活動内容としては、まず、第1時から第4時までは、教科書を活用して、地域のニュースを伝えたり、その内容について対話したりするための表現を理解、練習させる。次に、第5時から第6時には、middle task「日本各地の祭をレポートしよう。」に取り組ませる。まず、第5時には、これまでに学んだ言語材料を、自分なりに工夫しながら活用できるようにさせながら、レポートの原稿を書かせる。その後、第6時には、第5時に書いたレポート原稿の校正を相互に行わせることで、原稿に用いられた言語材料等を、まとまりをもって整理できるようにさせる。第7時から第8時には、地域のニュースに関する情報を集め、それを伝えるための原稿を作成し、校正を行わせ、第9時には、実際にALTに地域のニュースについて伝えさせ、その内容について簡単な対話ができるようにさせる。なお、単元を通して、4技能を総合的にはぐくめるよう、4技能を統合した言語活動をバランス良く配置し、指導計画を作成した。

このような指導を通して、生徒は言語材料等をまとまりをもって整理し、それらの言語材料等を自分なりに工夫しながら活用することができるようになる。また、そのようにして身に付けた言語材料等を活用する力と、つまづきを乗り越えようとする態度をはぐくむことで、習得した言語材料やストラテジーを活用しながら問題を解決する力が高まり、自ら考え、英語をよりよく理解・表現しようとする生徒を育成できると考える。

3 Class Survey

本学級の生徒は、英語学習に対する興味・関心の高い生徒が多く、ペアやグループでの表現活動に意欲的に取り組んでいる。しかし、ALTとの対話等、実際に外国の人と話す場面では、積極性に欠ける生徒も見られる。そこで、生徒が実際に英語を運用し、外国の人とコミュニケーションを図る際に不安に感じるなどについて質問し、実態を探った。

3年5組 男子20名 女子20名

- 1 次の中で、あなたが最も難しいと感じるのはどの活動ですか。
- | | | |
|---|---------|-------|
| ア | 英語を書く活動 | 32.5% |
| イ | 英語を聞く活動 | 25.0% |
| ウ | 英語を話す活動 | 22.5% |
| エ | 英語を読む活動 | 20.0% |

- 2 1でそのように答えた理由を自由に書きなさい。
- ア
 - ・「文法などを正しく書かなければならない」など正確性に関すること（5名）
 - ・「単語の綴りが不安」「単語が分からない」など語彙に関すること（4名）
 - ・「どんな順番で語を並べるかが分からない」など英語の文構造に関すること（4名）
 - イ
 - ・「早くて聞き取れない」「メモをとる暇がない」などスピードに関すること（5名）
 - ・「音をはっきり聞こえない」など音変化に関すること（3名）
 - ・「一つ分からない単語がでてくると焦ってしまう」など（2名）
 - ウ
 - ・「何と言っているのか、すぐには思い浮かばない」など即興性に関すること（6名）
 - ・「発音に自信がない」など音声に関すること（3名）
 - エ
 - ・「単語や文法が難しいと読めない」など文法に関すること（4名）
 - ・「一文が長いと、どう訳せば良いか分からない」など文構造に関すること（3名）
 - ・「文が長いと読む気がしない」など意欲に関すること（1名）

- 3 ALTの先生と活動してみたいことはどの活動ですか。（複数回答可）
- | | |
|--------------------------------|-------|
| ・ ALTの先生と身近な話題について対話すること | 57.5% |
| ・ ALTの先生に身近な話題について紹介すること | 47.5% |
| ・ ALTの先生の身近な話題について聞くこと | 37.5% |
| ・ ALTの先生と身近な話題について手紙でやりとりをすること | 12.5% |

- 4 外国の人に、身近な出来事について紹介するとしたら、どのようなことを紹介したいですか。
- | | | |
|----------|---------------|-----------|
| ・ 学校の行事 | ・ 友達と遊びに行ったこと | ・ 日本の行事や祭 |
| ・ 花見 | ・ 最近見た映画や本 | ・ テレビ番組 |
| ・ 鹿児島島自然 | | |

以上の結果から、生徒は、表現面においては文字を用いてのコミュニケーション、理解面では音声でのコミュニケーションに対する不安が大きいことが分かる。英語を話す活動では、ゼスチャーや言い換えなどを使って、言語以外の要素も用いることができる一方で、書く活動では、綴りや文構造、文法事項などを正しく用いなければ、うまく気持ちを伝えることができないと感じていることがうかがえる。また、英語を聞き取る活動では、相手の話すスピードで理解しなければならず、読むときのよりに読み返して確認することが簡単ではないことが不安の原因と考えられる。

このような不安を取り除き、自ら考え、英語でよりよく理解表現しようとする生徒を育成するには、音声によるコミュニケーションにおいて即興性や方略的な能力を育成したり、また、文字によるコミュニケーションにおいて言語材料等を正しく運用する力を育成したりすることが大切である。

そこで、本単元においては、生徒が最も不安を感じている「書くこと」に着目し、生徒が実際に書いた文章を元に、言語材料等を正しく習得できるような授業を展開したい。また、原稿を書いた上で口頭での発表を行うという、書くことと話すことを統合した言語活動を取り入れることにより、音声でのコミュニケーションにも生かしていけるようにしたい。

4 Lesson Plan

(1) タスク 「ALTに地域のニュースを伝えよう」

(2) 言語の使用場面と言語の動き

言語の使用場面	言語の働き	表現形式
<ul style="list-style-type: none"> コンサート会場からのレポート 	<説明する>	<ul style="list-style-type: none"> This is your reporter, Maria Jones. I'm going to go to a Shamisen concert. I'm here in a big park in Hirosaki. I've loved Japanese music since I heard it for the first time. The concert will begin soon and it'll continue until about five. As you can see, it's very crowded. There are over 800 people here now. This concert is part of the city festival. It's very popular with people in this area.
<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの対話 	<ul style="list-style-type: none"> <質問する> <答える> 	<ul style="list-style-type: none"> These girls have been here since early this morning. How long have you played the piano? He has played for ten years.
<ul style="list-style-type: none"> 参加者へのインタビュー 	<説明する>	<ul style="list-style-type: none"> When I was in elementary school, I went to a shamisen school and practiced hard.

(3) 言語材料等をまとまりをもって整理させる工夫

ア 「聞くこと」「読むこと」における整理

生徒は、本單元までに、現在形、現在進行形、過去形、未来形を学んでおり、本單元では、新しい時制として現在完了形を学習する。そこで、これまでに学んだ時制と、現在完了形をまとまりをもって整理させるため、時制についてのまとめの時間を設定する。

具体的には、これまでに教科書で学んだ表現を「時制」という視点を持たせて分類させる。次に、分類したことから分かったことを、図や言葉でまとめさせる。

このことにより、生徒は「聞くこと」「読むこと」で接した英語を活かしながら、言語材料等をまとまりをもって整理することができるようになると思う。

イ 「話すこと」「書くこと」における整理

本單元では、生徒は middle task への取組として、日本各地の祭をレポートするための原稿を書く。レポートには、現在の様子を伝える現在形や現在進行形、前日までの様子や昨年までの取組を紹介するための過去形、これまで続いている伝統を紹介するための現在完了形、今後の取組を紹介するための未来表現など、様々な時制が用いられることが予想される。

そこで、個々が書いたレポートの原稿を、互いに「時制」等の観点で相互チェックし、相手にアドバイスしたり、誤りを修正する方法を確認したりさせる。

このことにより、生徒は、「話すこと」「書くこと」の活動を生かし、これまでに習得したことを確認したり修正したりしながら、言語材料等をまとまりをもって整理することができると思う。

(4) Allotment (6/9)

	タスク 主な学習内容	言語材料等の 活用場面	活用場面上における4技能の統合			
			L	S	R	W
第1時	small task 「単元のあらましを理解しよう」 ・ large task の設定 ・ 現在完了形の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ Starting Out の内容理解と音読練習 ・ 聞き取ったレポート内容の再現	レポートの内容を聞き取り, 再現する場面	○	→	◎	
第2時	small task 「友達の得意なことについてインタビューしよう」 ・ 現在完了形の疑問文の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ Dialog の内容理解と音読練習 ・ ペアでのインタビュー活動と内容の発表	インタビューして得た情報をもとに, 友達の得意なことを発表する場面	◎	→	◎	
第3時	small task 「ニュースの原稿を完成させよう」 ・ be 動詞の過去分詞を用いた現在完了形の形, 意味, 用法の理解と表現練習 ・ ニュースの内容の聞きとりと原稿の作成 ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習	ニュースの内容を聞きとり, 原稿を完成させる場面	◎	→	○	
第4時	small task 「有名人になりきってインタビューに答えよう」 ・ Reading for Communication の内容理解と音読練習 ・ 有名人のプロフィールの読み取り ・ ペアでのインタビュー活動と内容の発表	有名人のプロフィールから情報を読み取り, インタビューに答える場面			◎	←
第5時 第6時	middle task 「日本各地の祭りをレポートしよう」 ・ レポート原稿の作成 ・ レポート原稿の校正と発表	互いのレポートを読み合い, 再度原稿を書き直す場面			○	→
第7時 第9時	large task 「ALT に地域のニュースを伝えよう」 ・ 地域のニュースに関する情報の収集 ・ 原稿の作成・校正と発表練習 ・ 地域のニュースの発表	地域のニュースを伝えるための原稿を書き, 発表する場面	◎	←	◎	

(5) 評価規準表

観点別学習状況評価のための規準 3年 題材名 Unit 2 The Shamisen Concert 重点指導事項【「書くこと」から「話すこと」】
 [タスク] : ALT に地域のニュースを伝えよう。
 [目標行動] : 実況中継の英文を読みながら地域のニュースについてのレポート原稿を書き, それをもとに発表することができる。

評価計画 ポイント	観点 評価方法	I コミュニケーションへの関心・意欲・態度		II 表現の能力		III 理解の能力		IV 言語や文化についての知識・理解	
		評価規準	評価事例	評価規準	評価事例	評価規準	評価事例	評価規準	評価事例
SO	現在完了(継続)を用いて話す場面 (観察法, インタラクションによる英問英答)	(言語活動への取り組み) ア 間違いを恐れず, 現在完了(継続)を使って英語で積極的に話している。	(正確な発話) ア 現在完了(継続)を正しく用いて話すことができる。 B ピクチャーチャートを用いて, 現在完了の文を繰り返し読むことができる。	A 自分や友達について現在完了(継続)を使つて紹介することができる。 B ケイトについてのメモをもとに Kate has... という文を2つ言うことができる。	A	A	(言語についての知識) ア 現在完了(継続)の文の形や平叙文の意味・構造を理解している。	A	have...過去分詞～since or for を使った英文を理解している。
D	現在完了(継続)の疑問文や応答の文を用いて簡単な対話をする場面 (観察法, インタラクションによる英問英答)	(言語活動への取り組み) イ 間違いを恐れず, 現在完了(継続)の疑問文と応答の形を用いて, 英語で対話している。	(正確な発話) イ 現在完了(継続)の疑問文や応答の文を正しく用いて対話することができる。 B 教科書のモデル対話を繰り返し練習させる。	A 発音豊かに対話を展開することができる。 B 現在完了の疑問文を使って, ペアで対話することができる。	A	A	(言語についての理解) イ 現在完了(継続)の疑問文や応答の文の意味・構造を理解している。	A	Have...? or How long have...? を使った文を理解している。
RC	メモを元に, ライブコンサートの案内状を完成し, 発表する場面 (観察法)	(言語活動への取り組み) ウ 間違いを恐れず, メモをもとに英語で表現しようとしている。 (コミュニケーションの継続) エ 別々の文句や表現で説明して伝えるなどの工夫をしている。	(適切な筆記) ウ ライブコンサートについて, メモを元に案内状を完成し, 発表することができる。 B メモの語句の意味を確認し, 英文の中でははまる場所を言わせる。	A 身近なイベントについての情報を集め, 案内状を作成することができる。 B 教科書のメモを見ながら, 適切な語句を選び, コンサートの案内状を完成することができる。	A	A	(言語についての理解) ウ 案内状を作成するのふさわしい表現を知っている。	A	教科書本文の中で使われている, 案内状を作成するのにふさわしい表現を理解している。
RC	ALT に, 地域のニュースを伝える場面 (観察法, 自己・相互評価)	(言語活動への取り組み) オ 間違いを恐れず, 言語活動に積極的・意欲的に取り組んでいる。 (コミュニケーションの継続) カ 一時的な言葉やジェスチャーを使わずに自然な表現をせよと努めている。	(適切な筆記・発話) オ ALT に, 地域のニュースについて伝えることができる。 B 紹介に必要な表現を, 教科書本文で再度確認させる。	A 文における強弱や, イントネーション, 語と語の連結などによる音変化などに注意しながらニュースを伝えることができる。 B 適切な語句や表現を選択し, 地域のニュースを伝えるための原稿を書くことができる。	A	A	(言語についての知識) エ 地域の行事を紹介するのふさわしい表現を知っている。	A	教科書本文の中で使われている, 地域の行事を紹介するのふさわしい表現を身に付けている。
	単元テストを用いて理解度を確かめる。		<基本> ①現在完了や前動詞を用いて正しい英文を書くことができる。 <発展> ②場面合った適切な英文を書くことができる。	<基本> ①短い対話文の内容を読み取ることができる。 <発展> ②まとまった英文の内容を読みとることができる。					

5 Aims of This Period

(1) 本時のタスク (middle task)

「日本各地の祭をレポートしよう。」

(2) 指導の重点

「書くこと」から「話すこと」

(3) 本時の目標行動

教科書教材の内容について、教師の質問に英語で答える。また、聞き取った内容をキーワードをもとに復元しながら、言語材料等への理解を深めることができる。次に、前時に書いた日本各地の祭をレポートするための原稿を、ペアやグループで相互チェックし、文章を校正する。その際、「時制」等に着目し、理解が十分でない点については、互いに説明したり、調べたりしながら、言語材料等をまとまりをもって整理することができる。その上で、原稿をもとにレポートの練習を行い、ペアで相手に伝わりやすいよう工夫しながら発表することができる。

(4) 本時の指導目標

ア よりよいレポート原稿を書くために、ペアやグループで協力しながら、積極的に意見を交換しようとする態度を育てる。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

イ 各自で書いたレポート原稿をよりよいものにするために、互いのアドバイスを生かしながら、原稿を校正することができるようにさせる。 【表現の能力】

ウ メモをとるなどの工夫をしながらレポートを聞き、情報を正確に聞き取ることができるようにさせる。 【理解の能力】

エ 祭のレポートをする際に必要な表現や文構造について理解させる。

【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 授業設計上の工夫

・ 「話すこと」「書くこと」における工夫

まず、前時までの復習として、教科書本文の内容を聞き取らせる。その後、聞き取ったキーワードをもとに、文章をペアで復元させる。その後、教科書本文と照らし合わせ、理解が十分でなかった点を確認させる。

次に、前時に書いたレポート原稿をペアやグループで交換させ、誤りがあるのではないかと判断した部分に線を引かせる。その際、「時制」等の視点をもって活動できるようにさせる。次に、線が引かれた箇所について、なぜ、線を引いたのか、どのように書けばよいのかなどを話し合いながら校正できるようにさせる。

これらのことにより、生徒は「話すこと」「書くこと」の活動を生かし、これまで習得してきたことを確認したり、修正したりしながら、まとまりをもって理解することができる。

(6) 本時の実際 (6 / 9)

区分	教授=学習過程	時間	生徒の活動	指導上の留意点 ◆ 評価 □ 補説 (研究との関連)
導 入	Start	10'	1 英語であいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習の雰囲気を作るために、大きな声で元気にあいさつさせる。
	Greetings 1			
展 開	Oral Interaction 2	30'	3 本時のタスクを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の祭について伝えたいという意欲をもたせた上で、タスクを提示する。
	Grasping Task 3		日本各地の祭をレポートしよう。	
	Understanding of Textbook 4		4 コンサート会場からのレポートを聞き、内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りの視点をもたせた上で聞き取らせる。
	Check of Understanding 5		5 教科書の内容について教師の質問に答える。また、キーワードをもとに、レポートを復元する。	<ul style="list-style-type: none"> 文章の復元に必要なキーワードを答えさせる質問をする。文章を復元する際、ペアで協力させる。 (教科論 6-(1)-イ)
	Aux.			<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教科書の内容を、キーワードをもとに復元することができたか。 □ ペアで話し合ったり、教科書を確認したりした上で再度取り組ませる。
	Yes			
	Getting Skills 6		6 校正の視点、校正の方法について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を交換して「時制」等について相互チェックを行うことを確認する。 誤りがあるのではないかと判断した部分には下線を引くことを確認する。
	Activity 7		7 交換した原稿の相互チェックを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、生徒のつまずきを把握できるようにする。
	Rewriting 8		8 原稿の校正を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 下線が引かれた部分の校正を行う。その際、どのように書き換えればよいか分からない部分などについてペアで確認させる。(教科論 6-(1)-イ)
	Presentation 9		9 レポートを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 原稿をもとに、レポートを発表することができたか。 □ ペアやグループで練習させた上で再度発表させる。
Aux.				
Yes				
終 末	Evaluation 10	10'	10 授業の感想や反省を述べ合う。	<ul style="list-style-type: none"> 各発表の良かった点を言い合わせ、達成感を感じさせる。
	Assignments 11		11 次時の活動について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 次時で地域のニュースについてのレポートに挑戦することを確認する。
	End			